



新成人の門出を祝う一日

〔令和7年度福津市二十歳のつどい〕「福津市第21回成人祝賀駅伝競走大会」

成人の日の前日、1月11日に、新成人の門出を祝う2つの行事を市内で行いました。

市中央公民館で開催した「二十歳のつどい」では、実行委員長の谷口莉音さんが二十歳代表として「輝かしい未来を切り拓くことをここに誓います」と力強くあいさつしました。式典後の福引き大会では、司会の白石ありさんの掛け声に合わせて抽選が行われ、会場は大きな歓声に包まれました。

久しぶりに顔を合わせた参加者同士が旧交を温める姿も見られ、元



△司会進行をする白石さんと実行委員の皆さん

バスケットボール部の男性らは「また試合がしたいです」と再会を喜んでいました。

同日には「福津市成人祝賀駅伝競走大会」も開催し、市内の自治会や事業所などから多くのチームが出場しました。気温が低く風が吹き荒れる寒空の下、津屋崎小学校を発着点に津屋崎千軒や勝浦を巡る約20kmのコースで、各チーム6人が力強くたすきをつなぎました。大会は「あけぼのA」が2連覇を果たし「原町A」「若木台Aチーム」が続きました。



△号砲を合図に一同にスタートする選手たち

第21回 成人祝賀駅伝競走大会結果

順位 (上位6チーム)	優勝	あけぼのA	1区	蛭田 渉正(あけぼのA)	躍進賞 (上位3チーム)	あけぼのC
	準優勝	原町A	2区	下田 惇晴(原町A)		↳ 10分52秒 更新
	第3位	若木台Aチーム	3区	野尻 翔大(大和2区)		日蔭野5区ガチチーム
	第4位	大和一区A	4区	高松 裕太郎(大和1区A) ※区間新		↳ 10分24秒 更新
	第5位	キューヘン	5区	金子 巧(あけぼのA)		JAむなかた
	第6位	昭和・西福間1	6区	石橋 広基(昭和・西福間1)		↳ 9分46秒 更新

文化財を巡る学びのひととき

津屋崎千軒文化財探訪

歴史的建造物を巡り学ぶ「津屋崎千軒文化財探訪」が1月25日に開催されました。

一般非公開の豊村酒造座敷会場では、県文化財保護課の松本将一郎さんが「津屋崎の入海の風景と建築」と題して講演し、地域の地理的構造が歴史的景観に与えた影響について参加者は理解を深めました。

続いて藍の家保存会の古閑由美代表のガイドで「豊村酒造旧醸造場」「藍の家」「旧玉乃井旅館」を巡り、建物に残る歴史や当時の面影を感じながら学びました。参加者は「これまで何度か近くには来たが、内部まで見られてよかった」と話していました。



▲豊村酒造の座敷で松本さんの講座を受ける参加者

スタイル・表現力を競う全国大会で日本一

「モデルジャパン2025日本大会」で優勝

昨年11月23日に両国国技館で行われた「モデルジャパン2025日本大会」レジェンドクラス60歳以上の部で優勝した高山盛秀さんが、1月22日に市長を表敬訪問。3度の予選敗退を乗り越え、初めて立った決勝の舞台でつかんだ栄冠です。

高山さんは大会時の動画を披露し「瞬間も気が抜けなかった。2連覇を目指して体を作りました」と話していました。



▲表彰状を掲げる高山さんと福津市長

「切磋琢磨」を胸に全国の強豪へ挑む

「第57回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会」に出場

福岡ミニバスケットボールクラブ男子チームが県大会で優勝し、3月28日からの全国大会出場を報告するため、1月22日に市長を表敬訪問しました。チームのスローガンは「切磋琢磨」。楽しくプレーすることを大事にしているというキャプテンの辻大雅さんは「悔いの残らないよう一試合でも多く勝ちたい」と意気込みを語っていました。



▲県代表としての決意を示すチームの皆さん

体験と発表で輝く子どもたち

第8回FUKUTSU「ミニティ・フェスタ」

「志をもち、未来をたくましく切り拓く子どもたち」をスローガンに、FUKUTSU「ミニティ・フェスタ」を1月25日に市中央公民館とふくとぴあで開催しました。

青少年の健全育成のために尽力したかたや、今年度に入スポーツ、文化などの分野で活躍した子どもたちの表彰、子どもたちによる日頃の成果を発表する発表を市中央公民館ステージで行いました。また、わくわくチャレンジ広場やどきどき体験コーナー、食育フードコートなどの子どもたちが楽しめる遊びや体験イベントが多く行われ、来場者は思い思いに楽しんでいました。



▲神興幼稚園の年長児が息を合わせたパラバルーンを披露

線状降水帯の被害

今回はU・Tさんからの投稿です

一杯になり、何日もかかりそうな清掃を終えることができました。

今後は天気予報をしっかり確認し、前もって備えなければならぬと強く思いました。

▶晴天の下で行われた地域合同の清掃活動



街角カメラリポート

最近「線状降水帯」という言葉がよく耳にするようになった。昨年8月の大雨では、テレビや新聞で各地の被害が報道されていたが、実際に体験して初めてその怖さが身に染みた。わが街にも8月9日から3日ほど線状降水帯が停滞し、激しい雨が降り続いた。夜中に何度も目が覚め、その度外の様子をのぞき込んだ。強風で揺れる木々、地面にたたきつける大粒の雨、雷鳴。あつ

という間に住宅や道路が冠水し、車が深い川底に引きずりこまれそうになった。こうした異様な雨は今まであまり経験がなく、恐怖と警戒心で降り続く雨を見つめていた。

数日後、地元の人や地域づくりの人たちが臨時の合同清掃が行われた。猛暑にもかかわらず、1時間ほど冠水した場所の周辺を片付けや除草を行った。軽トラックの荷台は枯れ木や土砂であつという間に